

安心・安全は地域から

地域の力で災害に強いまちづくりを!



●高齢者や障害者などを支援する個別避難計画作成モデル事業●

個別避難計画とは

個別避難計画とは…災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障害者など(避難行動要支援者)一人ひとりにつき、

- 本人の心身の状況
- 緊急連絡先
- 避難支援をする人
- 避難場所
- 避難経路

などをまとめたものです。市では、令和3年度から地域や福祉の専門職と連携した個別避難計画づくりを進めています。

地域の人を守るために、市内の町内会などで、積極的に取り組んでいきたいと思います。

令和3年度は、小坂町をモデル地域として、福祉と防災との連携による地域の避難支援体制づくりを実施し、「個別避難計画」の作成を行いました。

市では、災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障害者などが安全・確実に避難することができるよう、地域の避難支援体制づくりに取り組んでいます。

**小坂町モデルを参考に
個別避難計画を
立てよう!**

地域の連携体制



民生委員児童委員



福祉専門職

- ・ケアマネジャー
- ・相談支援専門員
- ・高齢者相談センター
(地域包括支援センター)

- ・訪問時に「備え」の確認
- ・安否確認

- ・福祉サービスの調整
- ・訪問時に「備え」の確認

- ・避難の呼び掛け
- ・一緒に避難

- ・地域の避難所での困ったことの相談

避難の支援が必要な人

自主防災組織・近隣の人

小坂町での取り組み

安全・確実な避難のため、支援が必要な高齢者や障害者一人ひとりに合わせた「個別避難計画」を作成しました。

個別避難計画 作成までの流れ

家庭訪問を行い避難行動について確認

小坂町の自主防災組織である小坂町防災会、民生委員、福祉専門職、行政が自力での避難が困難な人を訪問して、避難行動についての確認を行いました。ハザードマップや非常持出袋などの「備え」の状況、災害が予測されるときにどういう行動をとるかなどを聞き取りました。

**訪問内容をもとに
地域での検討会議**

その内容をもとに、福祉専門職が支援すること、地域でできることについて話し合い、次のことなどを決めました。

- 避難先として福祉サービスを利用するときは、防災会に伝える
- 自宅を避難場所とする人でも、雨がいつもより強いときは、防災会が声掛けをして避難する
- 避難するときには、非常持出袋に常備薬なども入れておく
- 地域と福祉専門職が情報共有できる体制をつくる



支援が必要な人の家を訪問

オモテ面

記載例

避難行動要支援者避難支援プラン（個別避難計画）
防災チェックシート（風水害時）

令和 ○年 ○月 ○日

ふりがな	みはら はなこ	性別	
氏名	三原 花子	男・女	女
住所	〒723-0000 三原市 港町三丁目5番1号	世帯人数	1人
電話・FAX	電話 0848-00-0000	FAX	0848-00-0000
生年月日	明・大・中・平・令	〇〇年 1月 1日生（80）歳	
必要な支援	なし・車椅子・筆談・誘導・その他（ ）		

自宅の災害リスク	土砂災害・洪水・高潮・津波・その他（ ）
災害のおそれがあるときの行動	自宅2階・親戚宅（ ）・避難所（〇〇集会所） ショートステイ等施設（△△ホーム）・その他（ ）
緊急連絡先	三原 市郎（子） 0848-00-0000（日中は仕事しています） 本郷 花子（妹） 090-0000-0000（夜間は外出できません）
地域で関わりのある人	久井 一子 0843-00-0000（サロンに一緒に行っています） 大和 二男 010-0000-0000（隣の畑によく来ています）
必ず持ち出すもの（常備薬等）	血圧の薬 老眼鏡
関わりのある専門職（主治医・ケアマネ等）	△▲医院 ●●居宅介護支援事業所（〇●ケアマネジャー）
備考	

この内容を避難支援等関係者、福祉専門職、行政等と共有し、平常時の避難訓練と災害時の避難支援等に活用されることを承諾します。また、災害時の避難支援について、避難支援等関係者にその責任を問いません。

署名 _____ 代理人署名 _____（続柄： _____）

個別避難計画のポイント



高齢者福祉課職員 藤本悦子

現在は、市や福祉専門職、防災に関わる人たちが共同して作成を進めています。日ごろから地域が高齢者や障害者などと関わりを持っておくことが、いざというときに役立ちます。

Point!

地域・専門職・行政が共有

個別避難計画は本人の同意の上、関係者で共有。

普段の様子を知っておくことが大切!



ケアマネジャー 林 さおりさん

Point!

かかりつけ医や健康状態の確認

治療中の病気や常備薬、健康状態などを確認。

Point!

緊急連絡先や避難場所の確認

慌てず連絡が取れるよう準備。

Point!

避難支援で配慮することの確認

誰とどんな方法で避難するか、何に気を付けるかなどを記載。

Point!

避難経路の確認

なるべく安全な広い道を通っての避難経路を作成。

地域で取り組むことが安心につながります。



民生委員児童委員
左／大下朝子さん
右／佐木二美さん

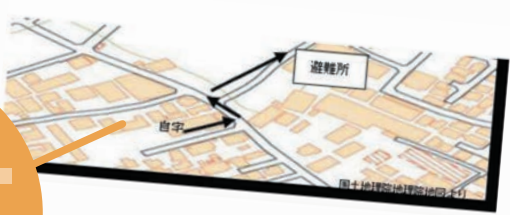
ウラ面

【特記事項（避難支援で配慮すること）】

- ・大雨が予測されるときは、普段からショートステイで利用している△△ホームに行く予定です。
- ・△△ホームが利用できないときは、いつもサロンで行っている〇〇集会所に避難します。
- ・避難するときは、久井一子さんの家族の車に乗せてもらうようお願いします。

【避難の留意事項（ハザードの状況、避難経路等）】

- ・家の玄関前の山が土砂崩れのおそれがあります。
- ・高齢者等避難が発令されたら早めに避難します。
- ・念のため、勝手口から避難できるよう、非常持出袋と履きなれた靴は勝手口に置いてあります。
- ・山から離れば安全なので、見通しの良い道を通って避難します。



小坂町での取り組み 防災訓練

防災訓練を実施し 個別避難計画を検証

11月3日に、小坂町で防災会主催の防災訓練を実施。沼北小学校を会場に、住民や福祉専門職など総勢200人が参加しました。

大雨により警戒レベル3「高齢者等避難」が発令された状況を想定しての避難訓練も行いました。個別避難計画に沿って自宅から避難所まで実際に動いてみることで、それぞれの役割の確認や無理なく避難できるかなどを検証しました。

土のう作りや
消火器の使用方法、
地震体験なども
実施しました。



防災訓練の流れ

① 高齢者へ電話

警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたら、一緒に避難する人から高齢者へ電話。避難所へ移動するため、迎えに行くことを伝える。



② 高齢者と支援者が合流

一緒に避難する人（防災会の人や民生委員など）が高齢者宅へ迎えに行く。非常持出袋などを確認する。



③ 車で避難所へ移動

個別避難計画に記載した避難経路を通り、安全に移動。



④ 避難所に到着

個別避難計画に沿って避難所での留意点などを確認する。



小坂町では「逃げるが勝ち、逃げたら飯」という気持ちで取り組んでいます。具体的に何ができるか、個別避難計画作成から取り掛かってみるとよいと思います。



小坂町防災会 会長
佐木 学さん

平成30年7月豪雨で家の裏の土砂が崩れてから、普段から防災を意識しています。今回は、車椅子の用意があったので、迅速に避難できて安心でした。



避難訓練に参加した
三宅剛明さん
千里さん

個別避難計画についての問い合わせ

「個別避難計画の作成に取り組みたい」「地域の避難支援体制をつくりたいが進め方が分からない」という場合は、高齢者福祉課まで問い合わせてください。事業の説明や福祉専門職との調整、地域の検討会議を支援します。

〒 高齢者福祉課

TEL 0848-67-6055 FAX 0848-64-2130

個別避難計画を作成している町内会・自治会

本町防災会

港町町内会

川西町内会

三原
ダイヤハイツ
自治会

災害時だけでなく、日常から 企業・団体の活動に防災を組み込む

平成30年7月豪雨災害の経験から、市は県立広島大学と一緒に避難行動調査研究を進めてきました。その結果を受けて、市内で活動する30の企業や団体と市が一体となって効果的な市民の避難行動促進システムを構築するために、「市民避難行動促進『三原スタイル』構築連携協議会」を設立しました。行政を中心に構築された避難に関するシステムから、企業や団体のアイデアやノウハウを加えた三原独自の避難行動促進システムの構築へ。災害発生の危険性を「自分のこと」として捉え、適切な避難行動をとりましょう。

普段の暮らしに防災が溶け込む

三原スタイル

市民の生活に密着した30の企業や団体が参加

放送、道の駅、小売、ホテル・旅館、製造、損害保険、送配電、ガス、電気通信、倉庫、貨物自動車運送、港湾運送、船舶運航、旅客自動車運送、福祉、防災の各分野から企業や団体が参加し、市民の避難行動をサポートしています。

参加企業 の声

イオンリテール(株)
イオン三原店 店長 森 雅弘さん
普段から身近な店舗で声掛けをし、
皆さんの防災意識を高めていきます。

中国電力ネットワーク(株)尾道
課長 岡 幸人さん
停電情報は☎やアプリなどで情報発信し
ていますので、活用してください。

具体的な取り組み

市民避難行動促進「三原スタイル」構築連携協議会では、4つの部会を設置して、取り組みを始めています。

01 避難情報 避難促進

参加企業店舗での
避難情報などのアナ
ウンスや非常持出品
・家庭用備蓄品の特
設販売を実施。



02 避難行動 要支援者避難

自主防災組織と福祉専
門職が連携した個別避難
計画の作成。バス・タクシ
ーによる避難訓練などを
実施して計画を検証。



03 ライフライン

電気・ガス・水道・電話の復旧見込みを伝える
情報発信タイムラインの作成に取り組む。

04 物流・物資 調達

避難の長期化に備えた緊急物資の調達や
輸送拠点の確保などに取り組む。

参加企業・団体

- 三原テレビ放送(株)
- (株)FMみはら
- (株)道の駅みはら(神明の里)
- (株)よがんす白電
- イオンリテール(株) (株)フジ
- (株)フレスタホールディングス
- マックスバリュ西日本(株)
- 生活協同組合ひろしま
- 三原ホテル旅館同業組合
- (株)八天堂 お多福醸造(株)
- あいおいニッセイ同和損害保険(株)
- 中国電力ネットワーク(株)
- 広島ガス(株) 西日本電信電話(株)
- 糸崎倉庫(株)
- 佐川急便(株) 城南運輸(有)
- (株)上組 土生商船(株)
- 三原交通(株) 城南観光(有)
- (福)三原市社会福祉協議会
- 三原市老人福祉施設協議会
- 三原市介護支援専門員連絡協議会
- 三原市地域包括支援センター
- 三原市防災ネットワーク
- 三原市防災土ネットワーク
- 三原市自主防災組織連絡協議会

市民一人ひとりの意識を高めて、防災を「自分ごと」に

市と民間企業で協力して、災害発生前からの「備え」に力を入れています。身近な店などで防災情報に触れることで、皆さん一人ひとりが「自分ごと」と捉え、普段から備えよう、逃げようという意識を持って欲しいと思います。市全体で防災力の向上をめざしましょう。

危機管理課長 河野克典

